

原子力発電所事故の脅威

①

ある若者が「私は今、福島原発4号炉のことが一番気になっており、万が一の地震などが起きた際にいち早く国外に脱出できるよう、家族も含めていつでもパスポートを身につけている」と言った。

現在のこの事態がどれだけ大変な状況であるかを熟知した上での言葉である。彼は日常、熊本県の信頼のお

ける農家から肉・野菜や水を取り寄せており、外食はほとんどしていないらしい。そんな彼に対して、被災者を応援するという意味で使われている「エシカル」について質問したところ、それぞれの世代にはそれぞれの役割があるという答えが返ってきた。

経営士の提言

そのようなもすれば神経営すぎるように見える行為をすべき世代、つまりこれから子

供を育てていく世代、とその心配をしながらもいい世代、を指して言っていたのだろう。さらには、「高齢者は自分自身に将来への何の憂いもないからと言って、何でも食べてもいいのだから疑問に思っていない。たとえ微量であっても体の中に放射性物質が蓄積され、いずれは火葬されて骨となり埋葬される。その時点

で、空気中や土の中に浸透し、まためぐり巡って来るのでは…」と問いかけられた。現在の政府関係者、当該研究者たちは、遠い将来のことまで本当に考えて、考えて大飯原子力発電所の再稼働を決定したのであるか、甚だ疑問である。毎金曜日に総理官邸前で反対運動を繰り広げている市民団体は、

国の原子力発電技術や海外への設置権など、大きな国家事業であることは間違いない。しかし、それらと、安心して生活できる健全な国家建設とを天秤にかければ、どちらが大切かは考えなくても分かるだろう。少なくとも『ペトカウ効果』をできるだけ多くの人に知ってもらうよう活動したい。

大飯原発再稼働に疑問／安心して生活できる国に

中小政策